

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	2、3年で学習した物理基礎・研究物理・物理の総まとめを行い、その内容の完全な理解を図る。 演習により確実な基礎知識を獲得し、応用力を育てる。 国立大学の個別入試験に対応できる学力を身につける。	教科書	改訂 物理 (数研出版)
講座名	理系物理演習	科目名	理系物理演習			副教材	セミナー物理基礎+物理(第一学習社) 重要問題集物理基礎・物理 (数研出版)
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	少人数				
担当者名	①組 野村 ②組 野村						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	等加速度運動	円運動・万有引力	夏季休業期間	波の性質	直流回路	冬季休業期間	総合問題
	力と運動	単振動・単振り子		音波	電流と磁場		個別指導
	運動の法則	温度と熱量		光波	電磁誘導		
	抵抗力を受ける運動	気体分子の運動と状態変化		静電気力と電場	交流回路		
	第1定期考査	第2定期考査		コンデンサー	第4定期考査		
				第3定期考査			
定期考査までの授業数	時間	時間		時間	時間		時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	定期考査を中心に、宿題や小テストなどの平常点を加味する。
---------------	------------------------------

日常の 学習方法	国立大学の個別入試験問題の過去問を演習する。物理基礎・物理の重要問題集を演習する。。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	理学部、工学部、医学部等、医歯薬系進学希望者が、2次試験に対応できる実力を養成するための講座である。
---------------------	--

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	生物や生物現象に対する探究心を高め、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 大学の入試問題共通テストで高得点を取れるよう演習を行う。	教科書	東京書籍 生物	
講座名	理系生物演習	科目名	生物			副教材	実教出版 サイエンスビュー バックV	
単位数	2単位	区 分	演習系					
年 次	3年次	形 態	選択					
担当者名	1組 矢口	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>	
授業内容	年間シラバス・オリエンテーション 進路と学習方法について 細胞の働き 細胞の内部構造 細胞生物学 細胞の働き 細胞の内部構造 細胞生物学 代謝(呼吸・光合成等) 生化学 代謝(呼吸・光合成等) 生化学 代謝(呼吸・光合成等) 生化学	遺伝子のはたらき 遺伝子発現の調節 分子生物学 遺伝子のはたらき 遺伝子発現の調節 分子生物学 遺伝子のはたらき 遺伝子発現の調節 分子生物学 第二定期考査	夏季休業期間	発展演習(分子遺伝学) 発展演習(分子遺伝学) 第三定期考査	動物生理 植物生理 動物行動学 生態学 総合演習 総合演習	冬季休業期間 総合演習
定期考査までの授業数						

実力テスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	生命現象を受験問題を通じてどの程度理解しているかを定期試験等で把握する。考査で点数が平均点を大きく下回っても、普段の授業にしっかり取り組み、レポートを書いているれば単位を与える予定である。
---------------	--

日常の 学習方法	身の回りの現象や自分自身の体について、自分の言葉で説明できるようにする。
-------------	--------------------------------------

大学受験や 発展的な内容との関連	授業中扱った問題を中心に演習を行い、資料集などで自主的に生物用語について調べる。 復習を最低1問につき5回は繰り返し、知識の定着を図る。 定期的に自身の知識をメンテナンスし「小さな点数を落とさない」ことを心がける。 考察問題に強くなるために、授業中扱ったテーマについてしっかり理解する。
---------------------	--

令和2年度(2021年度)授業計画				目 標	基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 演習により応用力を身につけ、化学的に探究する能力と態度を育てる。	教科書	改訂 化学(東京書籍)	
講座名	理系化学演習	科目名	理系化学演習			副教材	2020 セミナー化学基礎+化学(第一学習社)	20201化学重要問題集(数研出版)
単位数	2単位	区 分	演習系				2021 チェック&演習化学(数研出版)	
年 次	3年次	形 態	選択				スクエア最新図説化学(第一学習社)	
担当者名	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組

学校行事	第1学期	遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期	木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期	<第5定期考査>
授業内容	原子の構造・物質量	電池 電気分解	夏季休業期間	脂肪族化合物	溶液	冬季休業期間	総合演習②	
	酸と塩基の性質	化学結合と結晶		芳香族化合物	反応の速さと化学平衡		個別指導	
	酸化還元	物質の三態		有機化学物の構造と性質・反応	天然高分子化合物			
	化学反応とエネルギー	気体の法則		非金属元素	合成高分子化合物			
				金属元素	総合演習①			
				無機物質の性質・反応				
定期考査までの授業数	時間			時間			時間	

実力テスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	定期考査を中心に、小テスト、宿題などの提出物、出席の状況を総合的に評価する。 定期考査は、化学基礎の分野からも出題する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業：時間内に理解できるように集中して臨むこと。 ②家庭学習：授業内容の問題演習を計画的に行うこと。 ③講習：夏季休業中には希望者を対象に夏季講習を予定しており、演習により応用力を育てる。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との関連	理系進学希望者で、二次試験に対応できる応用力を養成するための講座である。
---------------------	--------------------------------------

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	2年次で学習した「物理基礎」の問題演習を中心とした授業を行う。 重要事項の整理と解説、必要に応じて実験も導入する。 「物理基礎」の内容理解を深め、センター試験に対応するに十分な実力を養成する。	教科書	物理基礎(数研出版)
講座名	物理基礎(3年)	科目名	物理基礎			副教材	物理基礎(数研出版)
単位数	2単位	区 分	自由選択				大学入学共通テスト対策 チェック&演習 物理基礎(数研出版)
年 次	3年次	形 態	少人数				バックV物理基礎(駿台文庫)
担当者名	①組 黒川						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>
授業内容	大学入学共通テストで、「物理基礎」の得点9割以上を目標に問題演習を行う。「物理」は覚える事項は少なく、理解すれば高得点が狙える科目である。また、直接受験科目になくても、看護・医療系に進学する生徒は、自然科学の基礎科目として物理の内容はしっかり抑えておきたい。問題演習に取り組むことで物理への理解が深まる。				
	運動の表し方 いろいろな力と力のつりあい 運動の法則 第1定期考査	液体や気体から受ける力 仕事と力学的エネルギー 熱とエネルギー 第2定期考査	夏季休業期間	波の性質 音 物質と電気抵抗 第3定期考査	交流と電磁波 エネルギーとその利用 実践演習 第4定期考査
定期考査までの授業数	時間	時間	時間	時間	時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	
---------------	--

日常の 学習方法	物理的な事物・現象についての観察・実験などを通し、物理学的に探求する能力と態度・科学的な自然観が育成されたか、また、基本的な概念や原理・法則が理解できたかを評価の観点とする。 定期考査、実験レポート、小テスト、課題の取り組み方で総合的に評価する。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	①授業中 授業には遅刻、欠席をしない。予め範囲の基本事項を復習しておくこと。授業の内容については、ノートをかまめにとり、その場できちんと理解していく集中力が必要である。授業中は、常に、考える姿勢を要求する。 ②家庭学習 与えた問題集をやりきり、とにかく自分の言葉で書く。自分専用のノートを作成すること。
---------------------	--

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	物理的な事象・現象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する 関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに 基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。	教科書	改訂版 物理 (数研出版)
講座名	物理	科目名	物理			副教材	セミナー物理基礎+物理(第一学習社)
単位数	4単位	区 分	自由選択			副教材	物理重要問題集(数研出版)
年 次	3年次	形 態	少人数			副教材	大学入学共通テスト対策 チェック&演習 物理 (数研出版)
担当者名	①、②、③組 加藤木						

学校行事	第1学期	<第1定期考査>		<第2定期考査>		第2学期	木もれ陽祭	<第3定期考査>		<第4定期考査>		第3学期	<第5定期考査>	
授業内容	円運動	電場		夏季休業期間		電流と磁場		原子の構造		冬季休業期間		総合演習		
	慣性力	光		前期		電磁誘導		原子核と素粒子		前期		個別指導		
	単振動	第2定期考査		分野別重要問題		交流と電磁波		第4定期考査		総合問題(応用)				
	万有引力			後期		電子と光				後期				
第1定期考査			総合問題(基礎)		第3定期考査				過去問対策					
定期考査までの授業数	時間		時間			時間		時間				時間		

実力テスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	物理的な事象・現象についての観察・実験・課題研究などを通し、物理学的に探究する能力と態度・科学的な自然観が育成されたか、また、基本的な概念や原理・法則が理解できたかを評価の観点とする。 定期考査、実験レポート、小テスト、課題の取り組み方で総合的に評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 授業には遅刻、欠席をしない。授業の内容については、ノートをかまめにとり、その場できちんと理解していく集中力が必要である。授業中は、常に、考える姿勢を要求する。 ②家庭学習 与えた問題集をやりきり、とにかく自分の言葉で書く。自分専用のノートを作成すること。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との関連	自然科学の基礎が物理学である。特に「物理Ⅱ」の力学・電磁気学の内容は、大学進学後の基礎教養科目の中に位置づけられており、高校で学習しておかないと、大学で理系科目の講義が理解できない。
---------------------	---

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	化学的な事物・現象について、観察や実験などを通して自然に対する興味・関心を高める。 化学的に探究する能力と態度を育てる。 基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 1, 2年で学習した化学基礎および化学の内容を復習し、定着を図る。	教科書	改訂 化学(東京書籍)		
講座名	化学	科目名	化学			副教材	2020 セミナー化学基礎+化学(第一学習社)	2021 化学重要問題集(数研出版)	
単位数	4単位	区 分	基礎系				スクエア最新図説化学(第一学習社)	2021 チェック&演習化学(数研出版)	2021バックV化学(駿台文庫)
年 次	3年次	形 態	選択						
担当者名	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組	

学校行事	第1学期	遠足	<第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期	木もれ陽祭	<第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期	<第5定期考査>	
授業内容	溶液と溶解度		化学平衡		夏季休業期間	高分子化合物の構造と性質		共通テスト対策演習		冬季休業期間	二次対策演習
	反応の速さとしくみ		粒子の結合と結晶構造			天然高分子化合物 合成高分子化合物		二次対策演習			個別指導
定期考査までの授業数	時間		時間			時間		時間			時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	定期考査は、化学基礎の分野からも出題する。 定期考査を中心に、実験レポート、宿題などの提出状況、小テストの成績、出席状況などを総合して評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業：実験は、前もって必ず実験プリントを読んでおき、一つ一つの操作が何のために行われるのか理解しておくこと。また、講義は、その時間内に理解できるように集中して臨むこと。 ②講習：夏季休業中には希望者を対象に夏季講習を予定しており、問題解法等を演習により補充する。 ③家庭学習：授業内容の問題演習を計画的に行うこと。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	理学部・工学部・農学部・薬学部・医学部等への理系進学希望者は、受験科目になくとも進学上必要な科目であることを忘れてはならない。物質の変化の内側に潜む仕組みに目を向ける姿勢を持つことが必要である。理系進学希望者で、二次試験に対応できる実力を養成するための講座である。
---------------------	--

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、 目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	教科書	改訂版 物理基礎（数研出版）	
講座名	物理基礎（2年）	科目名	物理基礎			副教材	セミナー物理基礎+物理（第一学習社） 物理図録（数研出版）	
単位数	2単位	区 分	必履修					
年 次	2年次	形 態	クラス単位					
担当者名	1組 加藤木	2組 野村	3組 大塚	4組 大塚	5組 加藤木	6組 野村	7組 大塚	8組 大塚

学校行事	第1学期	遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期	木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期	<第5定期考査>
授業内容	物体の運動	運動の法則	夏季休業期間	熱とエネルギー	音と振動	冬季休業期間	電気の利用	
	落下運動	力学的エネルギー		波の性質	物質と電気抵抗		エネルギーとその利用	
	力のつりあい	第2定期考査		第3定期考査	第4定期考査		物理学が拓く世界	
	第1定期考査						第5定期考査	
定期考査までの授業数	時間	時間		時間	時間		時間	

実力テスト 実技テスト 課題テスト			

評価の観点 評価方法	物理的な事象・現象についての観察・実験などを通し、物理学的に探求する能力と態度・科学的な自然観が育成されたか、また、基本的な概念や原理・法則が理解できたかを評価の観点とする。 定期考査、実験レポート、小テスト、公式テスト、課題の取り組み方で総合的に評価する。
---------------	--

日常の 学習方法	①授業中 授業には遅刻、欠席をしない。授業の内容については、ノートをかまめにとり、その場できちんと理解していく集中力が必要である。授業中は、常に、考える姿勢を要求する。 ②家庭学習 与えた問題集をやりきり、とにかく自分の言葉で書く。自分専用のノートを作成すること。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との関連	自然科学の基礎が物理学である。大学受験科目に物理分野がなくても、物理基礎で学ぶ内容は受験にも必要な教養分野である。
---------------------	---

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	物理的な事物・現象についての観察、実験を行い自然に対する関心を高める。 物理学的に探究する態度を育て、基本的な概念や原理・法則を理解させる。	教科書	改訂版 物理基礎(数研出版)
講座名	理科課題研究	科目名	理科課題研究			副教材	セミナー物理基礎+物理(第一学習社) 物理図録(数研出版)
単位数	1単位	区 分	自由選択				
年 次	2年次	形 態	少人数				
担当者名	1 ~ 8組 野村						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	電流	平面上の速度・加速度 水平投射 斜方投射	夏季休業期間	平面上の力のつりあい 2物体の運動方程式 剛体にはたらく力のつりあい	熱力学第一法則 気体の法則と気体の状態変化	冬季休業期間	正弦波の式 波の干渉・反射・屈折 ドップラー効果
定期考査までの授業数	時間	時間		時間	時間		時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	物理的な事物・現象についての観察・実験などを通し、物理学的に探究する能力と態度・科学的な自然観が育成されたか、また、基本的な概念や原理・法則が理解できたかを評価の観点とする。 定期考査、実験レポート、小テスト、公式テスト、課題の取り組み方で総合的に評価する。
---------------	--

日常の 学習方法	①授業中 授業には遅刻、欠席をしない。予習の必要は特にはないが、復習は問題を自力でとくようにする。授業の内容については、最大の集中力が必要である。授業中は、常に、考える姿勢を要求する。 ②家庭学習 授業では問題演習の時間がほとんど取れないので、問題集は、日々の家庭学習で全問解いておくこと。実験レポート、各種課題は提出期限厳守。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との関連	物理基礎の発展的な内容を学習する。生徒実験を多く取り入れ、自然科学への探究的な姿勢を養う。将来の受験に対応した演習をおこなうと共に物理の内容の奥深さや広がりについてもふれる。受け身的な参加でなく、自らどこまでも追求する姿勢が必要である。
---------------------	--

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	化学的な事象・現象についての観察、実験などを行い自然に対する関心を高める。 化学的に探究する能力と態度を育てる。実験を通して観察力を身につけ結果を引き出す力を向上させる。 基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。	教科書	改訂 化学(東京書籍)
講座名	化学(2年)	科目名	化学			副教材	スクエア最新図説化学(第一学習社)
単位数	2単位	区 分	選択学校必修				2021 セミナー化学基礎+化学(第一学習社)
年 次	2年次	形 態	少人数				
担当者名	1組2組:筒井 3組4組:筒井 5組:筒井 6組:入倉 7組8組:入倉						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	第3編 無機物質 第1章 非金属元素 元素の分類と周期表 水素・希ガス元素 ハロゲン元素 酸素・硫黄	第3編 無機物質 第1章 非金属元素 元素の分類と周期表 窒素・リン 炭素・ケイ素 第2章 金属元素(I) アルカリ金属元素 2族元素 アルミニウム・亜鉛 スズ・鉛	夏季休業期間	第3章 金属元素II 遷移元素の特色 鉄 銅 銀・金 クロム・マンガン 金属イオンの分離 第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類	第2章 脂肪族炭化水素 飽和炭化水素 不飽和炭化水素 第3章 アルコールと関連物質 アルコールとエーテル アルデヒドとケトン 脂肪族カルボン酸 エステルと油脂 有機化合物の酸化 有機化合物の構造決定	冬季休業期間	第4章 芳香族化合物 芳香族炭化水素 フェノール類 芳香族カルボン酸 芳香族アミンとアゾ化合物 有機化合物の分離 有機化合物まとめ
	定期考査までの授業数	12時間	14時間		12時間	14時間	

実力テスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	定期考査を中心に、実験レポートの提出状況、小テストの成績で総合的に評価する。
---------------	--

日常の 学習方法	予習の必要は無い。授業を集中して受けること。授業を受け身の姿勢で受けるのではなく、常に考えながら主体的に受けること。授業で分からなかったところや、しばらくたち記憶から消えてしまったところを中心に復習すること。授業で配布されるプリントや購入した問題集を中心に演習に取り組むこと。小テストを適宜行う。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	「化学」の理論化学の一部と無機化合物および有機化合物について、大学入試問題や大学での専門的内容を含む。
---------------------	---

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	自分の身のまわりにある「なぜ?」「どうして?」と思うことを科学の方法で探求する態度を身につける。 生物に関する観察・実験などの体験を通じて、ヒトも自然の中に生きていることを自覚できるようになる。 「代謝」「遺伝」「体内環境」といったキーワードをもとに自分で考察と説明する力を身に付ける。 生活・人生における様々な出来事の中で、状況を分析し、考え、行動する力をつける。	教科書	新編 生物基礎 (東京書籍)	
講座名	生物基礎	科目名	生物基礎			副教材	サイエンスビュー生物総合資料 (実教出版)	
単位数	2単位	区 分	必修				ニューグローバル生物基礎 (東京書籍)	
年 次	1年次	形 態	クラス単位					
担当者名	1組 矢口	2組 上河原	3組 矢口	4組 矢口	5組 矢口	6組 矢口	7組 上河原	8組 上河原

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>
授業内容	多様な生物の共通点 生物の共通性としての細胞 代謝と酵素 エネルギー代謝 ミトコンドリアと葉緑体の起源 第一定期考査	生体内におけるエネルギー変換 正確に伝わる遺伝情報 DNAの構造 ゲノムと遺伝情報 細胞分裂とDNAの複製 細胞周期とDNAの複製 第二定期考査	夏季休業期間 遺伝情報の流れ 転写 翻訳 遺伝子の発現と生命現象 体内環境の特徴 心臓と血液循環 体内環境を調節する器官 第三定期考査	自律神経系による調節 内分泌系による調節 自律神経系とホルモンによる協同作業 第四定期考査	冬季休業期間 免疫 自然免疫と適応免疫 免疫とヒト 植生と生態系 植生の遷移 地球上の植生分布 陸上のバイオーム 第五定期考査
定期考査までの授業数					

実力テスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	①生命現象に関心を持ち、意欲的にそれらを研究すると共に、科学的態度を身につけることができるか。 ②観察・実験などを通して、生命現象に問題を見だし、実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりすると共に、事実に基づいて科学的に判断できるか。 ③観察・実験などを通して生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているか。 ④定期考査、テスト、レポート等提出物、実習に対する取り組み、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 しっかり自身の考えを持って生物学に臨む。身の回りの現象や自分自身の体について、自分の言葉で説明できるようにする。常に疑問を絞り出し、授業中は頭をフル回転させること。 ②家庭学習 授業のあったその日に復習することを勧める。、登場した生物用語を資料集や教科書で調べ、補足知識をメモすること。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との関連	用語や現象などの基本的内容を理解し、それらを用いて科学的物事の見方、考え方を習得し、入試に対応できる学力を身につける。
---------------------	---

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	化学的な現象について関心をもち、物質の性質や変化に対する探究心を高める。 化学的に探求するための能力や技術として実験や観察力を身につけさせる。 基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。	教科書	改訂 化学基礎 (東京書籍)	
講座名	化学基礎 (1年)	科目名	化学基礎			副教材	ベストフィット化学基礎 3rd Edition (実教出版)	
単位数	2単位	区 分	必履修					
年 次	1年次	形 態	クラス単位					
担当者名	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	I 物質の構成と構成 1. 純物質と混合物 2. 物質とその成分 3. 物質の三態と熱運動	III 粒子の結合 1. イオン結合とイオン結晶 2. 分子と共有結合 3. 分子の極性と電気印制度 4. 共有結合でできた物質 5. 金属結合と金属	夏季休業期間	2. 化学反応式と物質質量 VI 酸と塩基の反応 1. 酸と塩基 2. 水の電離と水溶液のpH	3. 中和反応 4. 塩 VII 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化・還元と酸化数 3. 酸化剤・還元剤	冬季休業期間	4. 金属のイオン化傾向 5. 酸化還元反応と日常生活 6. 電気分解と金属の製錬
	II. 物質の構成粒子 1. 原子の構造 2. イオン 3. 元素の周期律	IV 物質質量と化学反応式 1. 原子量・分子量・式量 2. 物質質量					
定期考査までの授業数	時間	時間		時間	時間		時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	定期考査を中心に、実験レポート等の提出状況、小テストの成績で総合的に評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	毎回の授業を集中して受けること。理解が十分でないところはしっかりと教科書、問題集などを用い復習すること。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	2学年で選択する化学の内容も取り入れて学習する。
---------------------	--------------------------